

■ 提案のコンセプト

故郷（ふるさと）である美唄らしさを感じられ、見晴らしや周囲の景観との調和に配慮した丘を設け、そこに合同墓を設置します。モニュメントはふるさとに向かい飛び立つ魂を表現します。

「天空に還る丘」・憩いと安らぎの 合同墓を作ります



駐車場から丘を見上げた
イメージ

丘の頂上にあるモニュメントの
イメージ



■ 業務実施体制

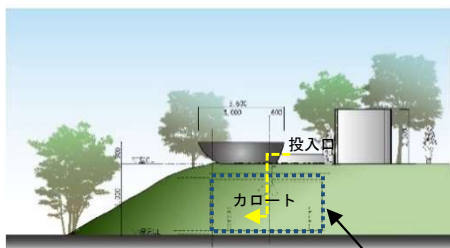
総合建設コンサルタントの強みを活かし、建築設計と土木設計の専門知識を持つ社内スタッフを中心に、道内での豊富な宗教建築設計経験者・ランドスケープデザイナー（宗教建築の実績あり）とチームを組み、本業務を遂行します。

■ 工程計画・ 実施フロー

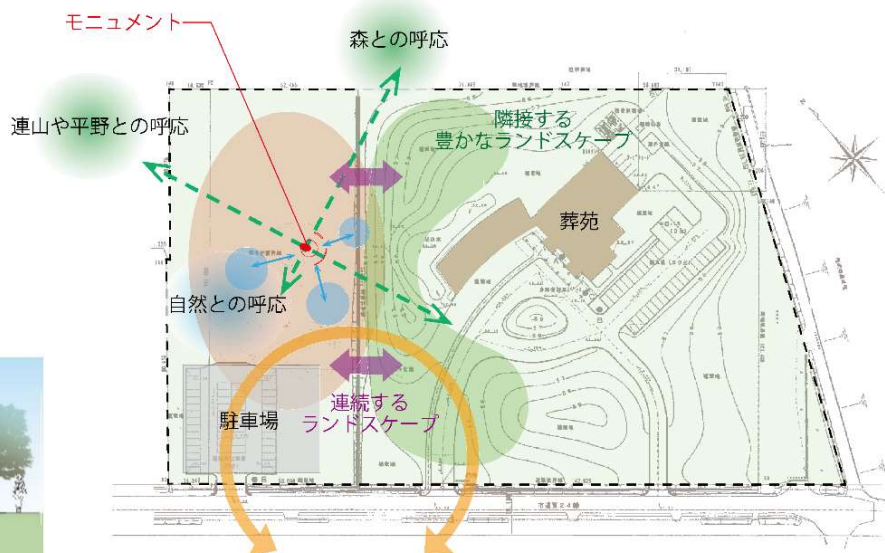
	令和3年	令和4年	
	12月	1月	2月
フェーズ	フェーズ1 現地調査・分析	フェーズ3 計画案とりまとめ・事業費の検討	
	フェーズ2 計画案作成		

■ デザインのコンセプト

既存の合同墓によくある「墓石型」ではなく、シンボル性を持ちながらも、ここでしかできない周辺環境と調和し、一体となるふるさとに開かれた『景観型』の合同墓とします。

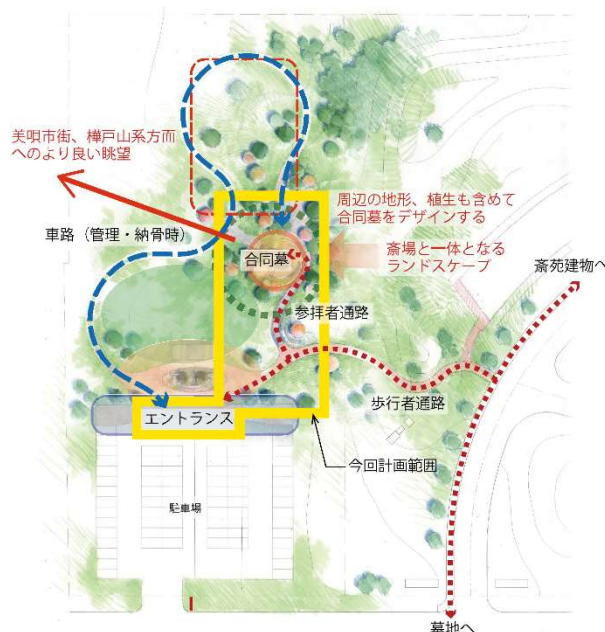


丘にあるモニュメントの下部に、カロートを設置します。



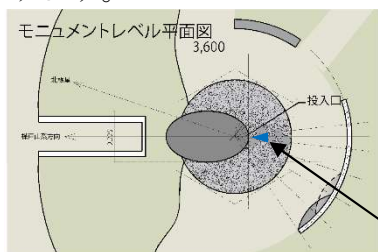
■ 土地利用計画・ランドスケープ計画

- ・隣接する斎苑の既存の地形や植栽と一体となるよう現況地形を利用し、新たな丘を作ります。
- ・美唄の町や樺戸山系の山並みなどの美しい故郷の風景を望むことができる合同墓を丘の上に造ります。
- ・合同墓への道のりは、歩むにつれてうつろう風景により、気持ちを参拝へといざないます。
- ・全ての通路は段差を無くし、高低差はスロープとしてバリアフリーを実現します。



■ 施設の基本構成

- ・黒御影の天然石（本磨き）のモニュメントに四季の樹木、空、遠くの山並みを映しこみます。



- ・ふるさとの川原の石をモニュメントの周囲に敷き、参拝者を誘導し、納骨堂の上部に納骨時以外に立ち入らない計画とします。また、人々の視線をコントロールする庇とベンチを設置した曲面の壁を設けます。

モニュメントの横に投入口を設置します。

■ 維持管理方法

- ・通路の舗装やシンボルモニュメント周辺の施設は、経年の劣化が少なくメンテナンスが容易な素材を採用し、必要な管理は日常的な清掃程度となるようにします。
- ・カロート内部には、背面の扉から入ることができ、容易に定期的な点検を行うことができます。